

## 第 59 回中国・四国地区高等学校 P T A 連合会大会(山口大会)の報告

平成 29 年 7 月 14 日(金)山口県下関市において、第 59 回中国・四国地区高等学校 P T A 連合会大会山口大会が開催されました。開催地下関は日本の歴史の変換点となった土地でもあり、本県からは、保護者、先生方含めて 138 名が参加されました。



大会は「育て、生きる力！ P T A は子どもたちの応援団  
— 今、変革の時、さらに一步踏み出そう — 」  
というテーマのもと、1600 名を超える参加者で開催されました。

講演は、文部科学省初等中等教育局財務課長の伊藤学司氏  
(前長野県教育委員会教育長) より『これからの高校教育と P  
T A の役割』と題し、

1. これからの社会
  2. 日本の高校生の現状
  3. 学習指導要領改訂の方向性
  4. 高大接続改革
  5. 学校を取り巻く環境
  6. これからの P T A の役割
- の講演があり、

最後に「P T A は学校に最も身近な『社会』である」とまとめられました。



午後はアトラクションから始まり、「先帝祭」で執り行われる「海峡上臈絵巻」が再現されました。

研究発表は、  
島根県立矢上高等学校 P T A より「高校存続と魅力化」— 地域と学校を結ぶ P T A、  
香川県立高瀬高等学校 P T A より「学校と繋がり、子どもと繋がる」- 学校と共に育む人間力  
山口県公立高等学校 P T A 連合会より「山口県高 P 連アクションプラン ROAD TO 2020」  
がありました。



ステージ上には下関中央工業高等学校が爪楊枝約 52 万本で制作した、山口県の名所などをあしらった屏風があり、高校生の力を感じる 1 日となりました。

来年の愛媛大会にも、一層の参加を  
お願いいたします。

